

タイトル

私たちは地球の宝も/～僕たちの可能性・僕たちの権利～

実践場所	静岡県	小山町立北郷中学校	実践者	植木さつき
対象	中学1年生・中学3年生		時間数	4時間
担当教科	英語	実践教科	英語・道徳・学活	
ねらい	<p> Bangladeshの子どもたちの現状を知り、貧困問題や子どもの人権について興味を持ち、自分の生活を振り返ることができる。</p>			
実践内容	回	プログラム	備考	
	1	<p>① Bangladeshの基本情報を確認する。</p> <p>② 教師が撮影してきた写真や動画を見て、Bangladeshについてのイメージを膨らませる。</p>		
	2	<p>アイスブレイキング</p> <p>① 自分が子どもの頃の写真を使って、写真にセリフを加えよう。</p> <p>② 自分の子どもの写真を使い、親になりきって、「子ども自慢をしよう。」(②' 時間によって友達の写真も使う。)</p> <p>Bangladeshの子どもたちの生活を知ろう</p> <p>③ Bangladeshの子どもたちになりきって自己紹介しよう。</p> <p>④ 背景のある写真を見ながら、Bangladeshの子どもの生活をイメージしよう。</p> <p>⑤ Bangladesh、日本の良い面を対比表にまとめよう。</p> <p>⑥ 「良い面」が個人が努力して築いたものかどうか考えよう。</p>	<p>* 保護者をお願いして写真を集めておく。</p> <p>* 背景なしの写真を使って名刺を作る。</p>	
	3	<p>「子どもの権利条約」について学ぼう。</p> <p>① 「子どもの権利条約」4種類を知ろう。</p> <p>② 「子どもの権利条約」40条を種類ごとに分けてみよう。</p> <p>③ 一番印象に残った権利について紹介し合おう。</p> <p>④ 「子どもの権利」が日本・Bangladeshで守られているか検証してみよう。(○△×)</p>	<p>* 日本ユニセフ協会サイトより</p> <p>* 40条をカードにしておく。</p>	
	4	<p>私たちができることを探してみよう。</p> <p>① ユニセフ動画「1歳の誕生日を迎えられない子」を見よう。</p> <p>② どうすれば子どもの権利が満たされるか、話し合っ解決策を探そう。(○△×を全て○にするためには…)</p> <p>③ エクマツラの渡辺さんに出会おう！</p> <p>④ 自分の行動目標を3つ決めよう。</p> <p>⑤ 自分の行動目標を共有しよう。</p>	<p>* 日本ユニセフ協会サイトより</p> <p>* NHK「mission」</p> <p>* 海外研修映像</p>	
成果	<p>初回の授業で Bangladeshの自然の豊かさや人々の明るい笑顔に触れ、良い印象を持って授業を開始できた。第2回では子供たちの明るい笑顔の裏には厳しい現実があることを知り、不公平感を持つことができた。また、子どもの権利について初めて詳しく学んだ生徒が多く、自分たちのこととして権利について考えられた。</p>			
課題	<p>4時間でやるには内容が多く、あと1時間取ることができたら、個人で考える時間やグループで学んだことを全体で共有することができたと思う。1コマ50分の間に入れることができる活動は多くても2つぐらいが適切かと思った。</p>			
備考	<p>① Bangladeshで出会った人々の魅力についての旅行記を学校便りに載せてもらった。</p> <p>② Bangladeshの紹介展示を図書室で行い、キャッチフレーズを募集し、協力隊員の方に選んでもらった。</p> <p>③ 第2・3時と第4時終了後に感想文と授業の様子を学級通信にまとめた。</p>			

はじめに

Bangladeshでの研修で最も印象に残ったのは、Bangladeshで出会った人々の魅力・生き方です。 Bangladeshで出会った人々は、現地の人も日本人もすごく魅力的でした。瞳を輝かせ、笑顔で私たちを迎え入れてくれた子どもたち。日本の教育に関心を持っていろいろと質問してくれた教育関連の方々。私たちに向き合って大切なことを教えてくれた農村の少女・女性たち。言語を習得し、人間関係を構築しながら活動しているJOCVの隊員の方たち。教育について見直すきっかけをくれ、また教職の魅力を再確認させてくれました。それらの出会いを通して見るBangladeshはすごくあたたかく、美しかったです。中学生は、自分と社会を見つめ、日々葛藤し、生きることと人の生き方に興味を持っています。私が出会った人々との出会いや価値観を通して、日本の中学生たちがBangladeshと肯定的に出会えるように授業構想を練っていきたいです。また、授業を通して、子どもたち自身が全ての子どもに可能性と権利あることに気付き、社会と自分の可能性にもっと興味を持ち、夢を語れるようになることを願い実践を進めました。

第1時間目「Bangladeshについて学ぼう」

指導者研修会での報告会のためにチームで作成したパワーポイントを使用しながら基本情報の確認。 Bangladeshの小学校で学ぶ子どもたちと青年海外協力隊の杉浦さんの紹介。 エクマツラで行った「日本紹介」のときの子どもたちの笑顔の写真を紹介。
（*日本紹介では3年生が作成した日本の衣服の実物大着せ替えを使用した。）



【生徒感想より】

- ・（前半省略）私の印象からして、Bangladeshがアジアで最も貧しい国と聞いたとき、あまり良い印象ではなく、生活が苦しいとか子供たちが元気がないのかなぁと思いました。しかし、植木先生の撮ったビデオを見てみると、Bangladeshの人々はとても笑顔でみんな明るくて見ていてもあたたかい気持ちになりました。また、Bangladeshの人々が好きな国は日本と聞いて、とても嬉しかったです。私は「書道」が大好きなので、いつか将来、Bangladeshに行って、日本の文化の1つとして書道のことを紹介したいと思いました。Bangladeshの人々の笑顔を見れて本当によかったです。やはり「笑顔」って多くの人を幸せにするエネルギーのような“何か”があると思いました。
- ・ Bangladeshの様子を見て、一番印象深いことは、子どもたちの笑顔が明るかったことです。日本とは全然生活が違うけど、貧しかったり、そういうことを感じさせないような明るい笑顔でした。写真や動画を見て、ソーラン節がすごく上手だったことと、私たちが作った日本の服を着にいてくれて嬉しかったです。Bangladeshの子供たちは学校に行くことが楽しみで、鉛筆を回収したり、部屋が薄暗く、そういう場面を見て、私たちは恵まれているんだなと思いました。これからも世界にはこういう人がいるんだということを知ったので、何か私も貢献できたらいいです。
- ・（前半省略）きっと心の中は自分たちより豊かなのだろうな...と思います。義務教育で学校に9年間当たり前のように通える自分たちは、無駄口をしたり、居眠りをする人が少なくありません。しかし、Bangladeshの小さい子供たちは騒ぎながらも、やる気に満ちているようでした。可能ならば、物を援助している日本に、逆に心を援助してほしい...とさえ思ってしまうました。

第2時間目「 Bangladesh の子どもたちの生活を知ろう」

アイスブレイキング：自分が子どもの頃の写真を使って、写真にセリフを加えよう。

自分の子どもの頃の写真を使い、親になりきって「子ども自慢」をしよう。
 友達の子どもの頃の写真を使い、親になりきって「子ども自慢」をしよう。



[生徒の反応]

事前に写真を回収したときから、友だちの子どもの頃の写真を見るのを楽しみにしていたこともあって、和気あいあいとした雰囲気です授業を始めることができた。また紹介し合う相手は男女交互に行うように指示を出したため、男女関係なく関わり合いウオーミングアップすることができた。

Bangladesh の子どもになりきって、自己紹介しよう。

[教材 1] 海外研修、及び 12 月の個人旅行で撮影してきた写真の中から、子どもたちの写真を 18 枚を選び、背景を切り取って名刺カードを作る。

- [手順]
1. 名刺カードを 1 人 1 枚配布する。他の人には見せないように指示をする。
 2. 名刺カードに載っている子どもになりきるために、自己紹介内容を個人で考える。
 3. 教室を歩き回って自己紹介をしながら名刺を交換する。(相手は男女交互とする。)
 4. もらった新しい名刺を使って自己紹介をする。(以後繰り返し。)

[名刺カード例]



*** その他使用した写真**





[生徒の反応]

最初はどのような自己紹介をしようか迷っていたが、特技や好きなことなどを考えるように助言をしたら写真の服装や持ち物を見ながら想像していた。生徒が考えた例は「釣りが得意」「バレーボールの選手」「これから街に買い物に行くところ」「教会に行くところ」などがある。

背景付きの写真を見ながら、教師の説明を聞こう。

写真： レール上のスラムで生活する子どもたち。

： マトワイル最終ゴミ処理場でゴミを拾い生活をする少年。

： 農村で女性の権利について学ぶ少女。少女の夢は医者になって貧しい人を助けること。

： 農村でリハビリ等の支援を受ける少年。

： 国立スポーツ学院で学ぶ生徒たち。

： エンゼル教会の女子宿舎で生活しながら職業訓練を受ける少女。

： 路上で物を売りながら生活する少年少女。

： 小学校で学ぶ子どもたち。

： 路上で生活をする家族。

： エクマツトラで集団生活をする元ストリートチルドレンの子どもたち。

： アイチホスピタル建築現場で出会った少年。英語を少しだけ話、エスコートしてくれた。

： 郊外で生活する一般家庭の子どもたち。

： YOU & ME International School で学び、親元を離れ生活する少女。

[生徒の反応]

名刺カードを使っでの活動とその活動の感想のシェアリングの段階では、ワイワイしながら活動していたため、真剣に話を聞くことができるか心配だったが、最初の1枚目の写真を見せた段階で教室中がシーンと静まり返った。自分たちが想像していた生活とは全く違い、写真の中の子どもたちの笑顔と生活の厳しさとのギャップに心を動かされているように見えた。生徒たちの鼓動や息遣いが聞こえてくるかのような、教室が1つになったように感じられた。

バングラデシュ、日本の良いところを対比表にまとめよう。

[手順] 1. 2色の付せんを配り、個人でバングラデシュ、日本の良いところを思いつくだけ書く。

2. 書いた内容を説明しながらグループで表にまとめる。

3. 各良さを「生まれたときからあるもの」「個人の努力・意志によるもの」に分ける。





[生徒の反応]

手順3の発問をしたときに、日本では例えば「学校に行ける」「衣食住が充実している」などと自分たちが生まれたときから恵まれていたことに気付いたようだ。「日本もバングラデシュも同じくらいの数の良いところがあがったけど、日本は生まれてからあるものが多く、バングラデシュは個人の努力によるものが多く、全く逆だった！」と興奮して話す生徒の姿が多かった。

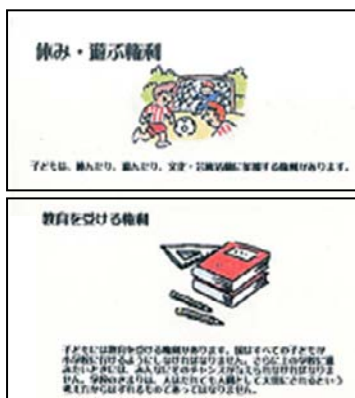
4. 班で気づいたことについて発表し、共有する。その後教師が捕捉で「生まれた場所が違うだけで多くの不公平が生じていること」を説明。

第3時間目「子どもの権利について学ぼう」

[教材2] 「子どもの権利」ボードを4種。(生きる権利、育つ権利、守られる権利、参加する権利)
 「子どもの権利条約」から30項目選び、それぞれでカードを作る。
 「子どもの権利条約」をまとめたシートを作る。

* 参照 日本ユニセフ協会 (<http://www.unicef.or.jp/>)

- [手順]
1. 場所や環境による不公平や差を減らし、子どもを守るために権利があることを説明。
 2. 「子どもの権利」のボードを配布し、基本的な4種類の権利を説明。
 3. 「子どもの権利条約」のカードを配布し、4種類の権利のうちのどれにあたるかを考える。
 4. 「子どもの権利条約」の項目の中で一番印象に残ったものを班の中で発表。
 5. 子どもの権利が、日本とバングラデシュで守られているか検証する。(×をつける)



30枚ある子どもの権利カードが4種類の権利のどれに当たるかを班で考えて権利ボードの上に乗せていく。



* 「子どもの権利ボード(生きる権利)」

* 「子どもの権利カード」



* あるグループの検証結果

[生徒感想より] 2, 3 時間目を終えて

- バングラデシュの人たちが、あまり良いとは言えない環境で暮らしていても、写真の中の人々は、みんながすごく笑顔で、すごく胸が熱くなった。私は本当に幸せだと思う。権利の話では、子どもの私たちのための権利があることを知り、ますます幸せだと思う。その中の権利でも、まだ完全に守られていないものもあるけど、こんなに大切に思われてることを知ることができた。
- バングラデシュは日本とは違く、ただ生まれた場所が違うだけで、こんなに生活が変わってしまう。でも、こんなに苦しい生活の中でバングラデシュのみんなは笑って過ごしています。この違い過ぎた環境をどうにかすれば、苦しむことはなくなると思います。食べ物もあるし、みんな同じ、平等な国づくりを、みんなで目指していけたらとても良いと思います。
- 今日の5、6時間目の授業をやって思ったことは「なぜ生まれた国が違うだけで環境がこんなにも違うのか」です。しかし、日本より生活が苦しい国の子どもが日本の子どもよりキラキラな笑顔をしていました。日本の子どもも、もっと努力をしてキラキラな笑顔で笑えるよう頑張っていたほうが良いと思います。

第4時間目「私たちができることを探してみよう」

① 動画「すべての子どもに5歳の誕生日を」を見よう。

* 参照 日本ユニセフ協会 (<http://www.unicef.or.jp/>)

② どうすれば子どもの権利が満たされるか、話し合って解決策を探そう。

1. 4人班で解決策を考えて、マッピングする。
2. 教室の中を自由に歩き回り、他の班のマッピングを見る。良いと思った考えに を描く。
3. 班に戻り、どこに マークがついているか見る。他の班の良い考えを共有する。



エクマットラの渡辺さんに出会おう。

- [教材3] 1. エクマットラのホームページに載っている渡辺大樹さんの挨拶文に振り仮名をふる。
2. 少しずつわけて音読ができるように、挨拶文を26パートに分け、短冊シートに書く。

2001年12月、当時大学4年生でヨット部に在籍していた私、渡辺大樹は、最後に国際ヨットレースに出場する機会を得て、その開催地である外国に行きました。これがそもそものきっかけでした。学生という立場で参加していた私でしたが、ヨットというスポーツの性格上、周りは世界中から集まった大金持ちばかりで、レースが終わると毎日パーティーが開催され、滞在先の豪華ホテルからパーティー会場までこれまた超豪華2階建てバスで移動するという日々、これが1週間以上も続きました。その何日目でしょうか。いつものようにレースを終え、バスでパーティー会場に向かっていたときのことでした。2階の窓際に座り何気なく外に目をやっていると、脇に広がる巨大なスラムが目飛び込んできました。ふと見ると、そのスラムの入り口のところで、みずぼらしい格好をした5、6歳の男の子が立ちこちらを眺めていました。そしてふっと目が合ったのです。そのとき大きな大きな衝撃が私の中を突き抜けていったのです。『なぜ俺はこんな豪華なバスから彼を見下ろしているのだろうか？』『なんであの子はあんなみずぼらしい格好で俺を見上げているのだろうか？』『俺は人知れぬ努力に努力を重ね、この地位にまで登り詰めたと言うのか？』『あの子は怠け人生を放棄してあの状態まで落ちぶれていったとでも言うのか？』

『いや違う、俺はたまたま日本で普通の家庭に生まれ、あの子はこの国のスラムで貧しい家に生まれた。たったそれだけ。たったそれだけでついてしまうこの差。自分は自分次第でなんにでもなれた。気が遠くなるような選択肢が目の前にあったのだ。』『でもあの子は……。この国のスラムで生まれた瞬間にほとんど選択肢が残されていない。頑張っても、いくら努力しても抜けられない、まるでアリ地獄……。そしてそれから一年後、一年経ってもあのときの衝撃は消えるどころか日に日に大きくなり私を突き動かしてつづけました。そして「自分という一人の人間が存在したことで一人でも二人でもいい。子供たちが可能性を感じ自由に未来を夢見られることができた。」そういう思いをもってやってきたのがバングラデシュでした。幸運にもバングラデシュ人の中でも同じように何かしなければという強い信念と行動力を持った仲間たちと巡り合い彼らと経験の共有と議論を重ね、この思いを形に変えていく決意をしたのです。

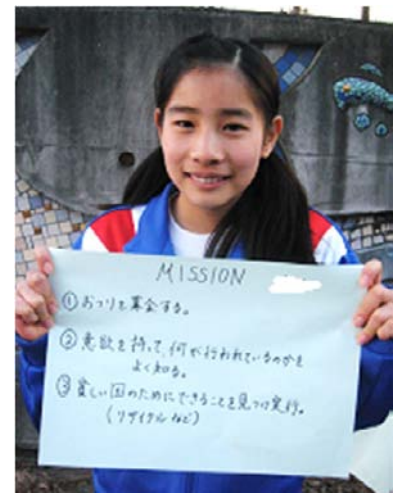
エクマットラ ホームページより <http://www.ekmattra.org/JAP/>

*タイ国籍の生徒がいるため、原文の「タイ」の部分を「外国」に変えた。

- [手順] 1. 教材3を使い全員で少しずつ音読することで、渡辺大樹さんが活動を始めたきっかけを紹介。
2. 渡辺さんの活動を紹介したNHKの番組「地球ドキュメント MISSION」を放映。

自分の行動目標を3つ決めよう。自分の行動目標を共有しよう。

- [手順] 1. 各自自分の行動目標3つを
B4サイズのカラー用紙に記入。
2. 個人写真を撮り、学級通信に載せる。



成果と課題

第1次感想で「ただ生まれた国の違いでこんなにも、生活の差が出るのは、もう仕方ないのかもしれないが、その環境でどう生きぬくかが大切だと思った。」と書いていた生徒が、最終感想で「今、自分ができることを少しでも行おうと思いました!」と書くなど、違いを知って驚くだけでなく、行動していきたいと変容していった生徒が多かったことはよかった。また行動目標に「差別をしない」などと書く生徒も多く、自分が想像していた以上の効果があったと感じた。課題としては、行動目標に「募金をする」と書いた生徒が多く、今後は募金にも色々な種類があることも含め、フェアトレード商品の購入、切手収集など、様々な支援方法があることを紹介していく必要があると感じた。